

第27回 夏の講演会・講習会を開催しました

8月19日(水)、20日(木)に、大阪府立中央聴覚支援学校・大阪府社会福祉会館にて、夏の講演会・講習会を開催しました。暑い中、多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。講演会・講習会を通して学びを深めるとともに、オーディオロジーに関わる先生方とのつながりを広げる機会にもなったのではないかと思います。

今年度は、初めての試みとして、各校の聴力測定室の様子をまとめて紹介するブースを設けました。掲示された写真や資料を見ながら、それぞれの学校での工夫や実践について、参加者同士で話が膨らむ場面も見られました。今後も、互いに情報を共有し、連携・研鑽し合いながら、ともに学びを深めていければと思います。



機関誌第95号では、皆様からいただいたアンケートを紹介しながら、夏の講演会・講習会を振り返りたいと思います。

聴覚の魅力と不思議～入門編～



- ・耳の構造、人工内耳、補聴器、難聴の原因など様々なことが分かり勉強になりました。この内容だけで5倍ぐらいの時間の授業で聞きたいです。先生の知識や経験、お話の仕方がとても魅力的でした。
- ・始まってすぐに、楽しい！分かりやすい！一言も聞き漏らしたくない、まだまだ聞きたい、先生からもっと学びたいと思いました。

聞こえのしくみと聴力測定

- ・歪んだ音声を聞いてみて、音は聞こえていても何を言っているのか分からないため、やはり視覚支援がどれだけ大事かを一つで改めて思いました。
- ・オージオグラムの見方や計算の仕方、聴力測定の行い方を皆で一緒にゆっくり進めていけたので安心して学ぶことができました。

早期教育の取り組みと聴力測定

- ・早期教育のリアルな指導や聴力検査のあれこれについて知ることができました。とてもおもしろいお話で、早期教育をやりたいと思いました。
- ・自身と同じように早期教育と向き合っている先生方がいることが分かり、実践あるのみと決意を新たに2学期を迎えることができそうです。

補聴器の特性とオージオグラム

- ・初心者向きと最初におっしゃっていましたが、補足の説明の中で、勉強になることがたくさんありました。カプラゲインとファンクショナルゲインの違いがあり、それによって予想する補聴閾値も微調整する話は、特にためになりました。裸耳の聴力、補聴器装用時の聴力、補聴器の周波数特性に密接な関係があることもわかりました。

難聴学級での支援と指導

- ・難聴学級センター校の取り組みから、在籍児童が1人という難聴学級の取り組みまで幅広くご紹介いただいて、参考にできる引き出しが多くてよかったです。聴こえる先生がどうしても人口的に多くなるので難しいところですが、聴者の視点に偏らないようにろう難聴当事者と協働する必要性を感じました。

動画視聴 過去の講演会



- ・まさか立入先生のお話が伺えると思っていなかったのが、ありがたかったです。
- ・ろう学校の歴史や補聴器の歴史、聴覚障害の歴史など初めて知ったことも多かった。また、語音検査など初めて聞いた検査も多くあり本校での語音検査でも取り組みたいと感じました。ありがとうございました。

地域支援

- ・舞鶴はじめ京都府の地域支援のシステムや実際どんなことをされているかを知ることができ、勉強になりました。地域支援についてほかの参加者の方と意見交流できたこともよい時間でした。
- ・京都北部支援センターについて学ぶことができました。場所によって、地域性が異なるので、良き学びとなりました。

補聴器・人工内耳の保守管理

- ・配付資料がとってもわかりやすかったです！バイブルにします。
- ・実際に補聴器をさわらせてもらい、聞こえもメーカーによって違うことも体験できて良かった。
- ・聴能担当者に任せてしまっている部分や自分が把握できていないことを改めて確認できた。

人工内耳の理解と支援



・人工内耳の細かな仕組みから、最新の情報までを詳しくお話いただき、とても勉強になりました。人工内耳が普通になってきた今こそ、難聴教育を…という先生の気持ちや抱負を忘れずに、これから子どもたちや保護者と関わっていこうと改めて思いました。ありがとうございました。

難聴児の心理的疑似体験



・何度か聞こえにくい、という体験をしたことはあったが、どうしてそういう聞こえになるのか、無意識にしていたことがよく分かった。聞こえにワーキングメモリのほとんどが使われていることも知ることができ、普段の指導の疑問点を解消することができた。先生のお話もテンポが良く分かりやすかった。

言語力評価

・指導に繋げるためのアセスメントは、大切な視点だと共感しました。アセスメントの方法や具体的な考え方について、もっと詳しく伺いたかったです。
・言語力評価のやり方は、すぐわかりました。心を育て、ことばを育てるということに感銘しました。

補聴援助システム

・実際に複数の機器を体験することができ、丁寧な説明もあり、実際に役立ちそうでした。
・講義だけでなく、実物を用意していただき、体験できたことが本当に良かったです。

小学部の自立活動

・視点を変えることや、学校生活全般の中での自立活動について改めて考えられた。事例があって分かりやすかった。
・児童の語彙を増やす取り組みや日記指導、日常生活の中で5W1Hを獲得するための具体例など今後の指導に活かせるものが多かったです。

聴覚障害に関わる福祉制度

・身体障害者手帳（聴覚障害）の等級判定の基準について、わかりやすく説明していただき、演習で確認もできました。補装具の申請や人工内耳の場合の申請については、日々関わる子どもに関連することで、わかりやすく説明していただき、ありがとうございました。
・手帳や補聴器更新、修理において知っておく必要のある内容を確認できました。

令和8年 8月20日（木） 会場：大阪府社会福祉会館

「聴覚障害児の読み書きの力について考える：不易と流行」

新海 晃先生（広島大学）



・聴覚障がい教育で、昔も今も変わらずに必要な指導もあれば、時代に応じて変えていかなければならない指導があることを再確認できました。聴覚障がいのある子どもたちの語彙力を伸ばしていくために必要なこと、できることを考えて実践を深めていきたいと思います。

・とても分かりやすく教えて頂きました。日頃、実践していることが不易に当たり、今後も専門性を継承していく必要を感じました。また、社会の動向、AIの活用などの流行も意識しながら、目の前にいる子ども達に最適な指導法とは何かを常に考え、今後の教育活動に取り組んでいきたいと改めて考えさせて頂いた貴重な研修でした。

・読む力・書く力を身につけるためには、読む「ための」力・書く「ための」力を育て身につける必要があることや絵本の読み聞かせの意義を改めて考えることができた。子どもたちだけでなく自分も読み書きを楽しみたいと思った。ご講演ありがとうございました。

・聴覚障害児の読み書きについて、ミーティングの機会があったので、他の方々の考えも大変参考になりました。幼小、中高と出口に近くなると社会で通用する力が求められますが、今日の講演会を参考にして、2学期からの支援に生かしていきます。ありがとうございました。

・読み書きを子どもたち自身が楽しむことはもちろん、指導者自身も楽しめていける活動をしていこうと思いました。また、ただ一人だけで読み書きは成り立たず、相手がいるということを覚えて取り組んでいこうと思いました。

「きこえない、きこえにくいからもう一歩進んでみよう」

ー発達障害のある聴覚障害児の理解と支援ー

大鹿 綾 先生(東京学芸大学)



・聴覚障がいのある・発達障害と聴覚障害を併せ持つ生徒への支援の難しさの要因と留意点が整理されたお話がとてもありがたかったです。多様な対応をするという点においては、教える側にもエフォートが必要だと思いました。また、「今」だけを見るのではなく、以前からの「変化」を見ることも大切だとのお話、全くの同感です。「生徒の困り感に寄り添いながら指導方法を模索して生徒のこれまでの変化を認め、これからの変化を楽しみにする」は教育者として大切な資質ですね。自信を持って取り組んでいきたいと思いました。音韻意識のお話は初めてで勉強になりました。後半は体感的に聴こえにくい生徒の状況が想像できるようなお話で考えさせられるものでした。ありがとうございました。

・今年度から相談支援担当になり、(乳幼児への支援はもちろんですが)保護者支援の重要度が非常に大きいと感じている。大鹿先生のお話を拝聴し、子どもたちに丁寧に関わり、できること・できていること・成長・良い変化などを具体的にたくさん保護者へ伝えていきたいと改めて思った。ご講義ありがとうございました。

・聞こえない、聞こえにくい子ども達を取り巻く現状から、多様な子ども達の居場所となりつつあるろう学校として、柔軟に対応するためには、どのような知識が必要であるのかを教えてくださいました。具体的な実態把握にも言及して頂き、今後に活かしていきたいと思っています。

・重複障がいの子どもたちへの支援は、子どもたち行動の原因を丁寧に見ていく必要があることを改めて確認できました。また、重複障がいであっても、音韻意識をつけることは大切だということも分かりました。子どもたちに合わせた支援を考えながら、必要な言語力も伸ばして行けるように実践を深めていきたいと思っています。

〈今後の予定〉

- 10月中旬 秋の講演会案内発送、機関誌 95 号発行
- 11月28日(土) 秋の講演会(大阪社会福祉会館)
演題 『偏らないデータセットから読み説く、人工内耳装用児の学力』
講師 齊藤 友介 先生(大東文化大学)
- 12月上旬 冬の学習会案内発送、機関誌96号発行

(令和9年)

- 2月5日(金) 第3回 代表委員会(奈良県立ろう学校)
- 2月6日(土) 冬の学習会(奈良県社会福祉総合センター)
演題 『未定』
講師 湯浅 哲也 先生(大阪教育大学)
演題 『未定』
講師 森本 千裕 先生(奈良県立医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- 3月下旬 集録 第27号発行、機関誌97号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町 68 番地 46

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校内

TEL:079-284-0331

FAX:079-222-5237

メール:kinkieaa@gmail.com